

令和3年度 東浅草小学校授業改善推進プラン

○ 第6学年【国語科】

1 児童の状況及び実態

・全国学力・学習状況調査より

		正答率
知識・技能		54.1
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	68.7
	書くこと	49.0
	読むことを	36.7

【知識・技能】

正答率が約5割であることから、漢字や言葉の定着が不十分である。

【思考・判断・表現】

書くことについては、5割を切っていることから、苦手意識があるだけでなく、日頃の学習で練習

が必要なことが分かる。読むことについては、他の内容に比べ、極端に正答率が低いことから、読解力を身に付ける必要がある。話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることが不十分である。

【主体的に学習に取り組む態度】

活字から情報を得るということに、苦手意識があるため、読書を嫌がったり、学年相応の読み物の理解が難しかったりする児童が多くいる。平易な課題については、自分の考えを積極的に伝えようとする気持ちがある。

2 指導についての課題

【知識及び技能】

- ・既習事項をいつでも活用することを意図した指導。
- ・丁寧な読みを大切にする指導。
- ・漢字や言葉などを反復して学習する指導。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・自分の考えを文章にしたり、話したりできる指導。
- ・自分の考えと友達のを比較し、自分の考えを再構築できる指導。
- ・要点は何かを考えながら読んだり、聞いたりできる指導。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・自分の考えを伝えたい気持ちを掻き立てられる指導。
- ・考える目的を意識した指導。

3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・のびゆけタイムなどを利用して、ゲーム的要素を取り入れた漢字や言葉の学習を行い、意欲的に学習に取り組めるようにする。
- ・「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の指導を関連して考えられるよう、段落構成や構成メモの書き方等、各領域の学習を関連させて行う。

【思考・判断・表現】

- ・一つの課題について、自分で考える→友達と考える→比べて考える→自分で考えるという時間をつくっていく。
- ・要点は何かを話し合ったり、確認したりする時間をとり、読み取り方を学べる時間を保障していく。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・考えてみようという気持ちになるように発問を工夫していく。
- ・友達に伝える、文章に表して伝える、学級全体に伝えるなど何のために学習しているのか、考えているのかなどをはっきりさせる。

○第6学年【算数科】

1 児童の状況及び実態

・全国学力・学習状況調査より

評価の観点	数論	図形	測定	数量関係	データの調べ	知識・技能	48.5
平均正答率	45.4	51.0	66.7	67.3	68.2	思考・判断・表現	48.7

・東京ベーシック・ドリル診断テスト（第5学年の内容） ※数値は%

大問	整数	小数	分数	割合	比例	面積	体積	平均	運動の大きさ	速さ	図の調べ	立体	グラフ
正答率	45.7	46.8	46.7	24.4	21.2	17	38.3	31.9	8.5	29.8	66	55.5	11

【知識・技能】
 正答率が7割を切っているため、十分定着していないことが分かる。特に数と計算の学習の中でも「単位量あたりの大きさ」の理解に課題がある。

【思考・判断・表現】
 どの単元も、文章題を苦手としている児童が多い。特に「単位量あたりの大きさ」、「グラフの読み取り」については正答率が極端に低い。既習事項をどのように活用すればよいのか、どの計算方法で立式すればよいのかということを考える力が不十分である。数の意味と表現、計算について成り立つ性質に着目し、計算の仕方を多面的に捉えることが不十分である。

【主体的に学習に取り組む態度】
 問題を前にすると、苦手なものがある時点で考えることを諦めてしまったり、問題文をしっかりと読まずにできないと決めつけてしまったりする児童が多くいる。



2 指導についての課題

【知識及び技能】

- ・四則計算をいつでもスムーズにできる指導。
- ・公式や重要事項がいつでもスラスラと言える指導。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・何を問われているのかをしっかりと文章から読み取れるようにする指導。
- ・問題文を読み、線分図や数直線などを使って自分の考えを表現できるようにする指導。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・完全な答えに辿りつけなくても、自分の考えを表現してみようという気持ちをもてる指導。
- ・友達の考えを聞き、他に方法はないかと考えることができる指導。
- ・ミスがないように最後までよく見直し、丁寧に課題に取り組む姿勢を身に付ける指導。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・どの単元の学習においても、授業の導入で、短時間、計算練習に取り組む時間を確保する。
- ・新しく学習する言葉や公式、それぞれの意味について確認したり、既習事項と比較したりということを繰り返す行う。

【思考・判断・表現】

- ・問題を解決するキーワードを押さえるようにする。
- ・立式だけでなく、必ず図や数直線などを確認する時間をとる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・自分の考えをもつ時間、考え方の過程を友達に伝える時間、みんなで考える時間をもつようにする。
- ・時間内にどれだけたくさん問題に挑戦できるかという活動やどれだけたくさん考え方が出せるか挑戦する時間など学習内容に即して、時間のもち方を工夫する。

○ 第6学年【社会科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより

評価の観点	わたしたちのくらしと日本憲法	預け嫁と親類縁者	縄文のむらから古墳のくにへ	天皇中心の国づくり
知識・技能	78.6	80.3	89.4	74.7
思考・判断・表現	78.1	85	85	73.7

【知識・技能】

基本的な語句やその意味等については、理解している児童が多い。その反面、基礎的資料を基にして、情報を適切に調べまとめる技能については、課題がある。

【思考・判断・表現】

単元の学習では、学習したことを基にして、「三権分立の効果」や「各時代の特徴」について考えることできた。半面、学習したことから課題を把握し、その解決に向けて社会への関わり方を考える力については、今後一層の向上が望まれる。

【主体的に学習に取り組む態度】

第6学年から始まった「政治の働き」や「我が国の歴史」の学習には、意欲的に取り組む様子が見られる。学習の見通しをもち、この単元で何を学習するのかを考え、学習問題をもって取り組めるようになりつつある。

2 指導についての課題

【知識及び技能】

- ・「我が国の歴史」に関する学習では、前の時代までの様子と学習している時代の様子を比較しながら、次の時代の様子を考えさせる指導。
- ・「政治の働き」に関する学習では、実生活の中にある政治の働きを具体的に捉えさせ、政治を身近なものとして考えさせる指導。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・「我が国の歴史」に関する学習では、既習事項から次の時代を「歴史上の人物の視点」や「その時代の平民」の立場になって考えさせる指導。
- ・「政治の働き」に関する学習では、複数の立場や意見を踏まえて、社会的事象の特色や意味を多面的に考えることができる指導。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かせるよう、様々な時事問題と学習内容を適切に結びつけながら行う指導。

3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・昨今の国会の動き等についてニュースに関心をもたせ、学習内容と関連させたり、時事問題についての調べ学習を行わせたりする。

【思考・判断・表現】

- ・考えたことや、選択・判断したことを、根拠や理由などを明確にして論理的に説明する活動を取り入れる。また、立場や根拠を明確にして議論したりする活動を取り入れる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・単元のまとめでは、学習したことが「社会の中でどのように役立つのか」、「自分は社会の中で何ができるのか」について、振り返る活動を取り入れる。

○ 第6学年【理科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより

評価の観点	もの鑑別	体のつくりとはたらき	植物の成長と日光の関わり	樹木の成長との関わり
知識・技能	82.4	70.8	79.8	79.3
思考・判断・表現	88.9	60.7	89.1	68.3

【知識・技能】

半数近くの児童の平均が8割以上であることから、どの単元も定着してきている。体のつくりとはたらきについては、難しい語句があり、理解と整理が不十分なため、他の単元と比較すると定着率が低い。

【思考・判断・表現】

単元テストの得点から、どの単元も定着していると言える。しかし、授業中に自分で考え、表現するという力は不十分なため、学習したことが知識としてのみ身に付いているような状態になっている。自然の事物・現象について追究する中で、よりよい考えをつくりだし、表現することが不十分である。

【主体的に学習に取り組む態度】

学習したことを生かして考えようという意欲があっても、解決できないと思うと、諦めてしまい、何か考えを表現してみようという結果に至らない児童が多い。

2 指導についての課題

【知識及び技能】

- ・実験や観察方法の理論上の指導と具体物の操作や活動の指導を一致させ、正しく行える指導。
- ・学んだ語句や知識をいつでも活用できる指導。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・目の前の課題に対して、既習の学習事項が関連していないかを考えられるようにする指導。
- ・日常生活の事象と関連付けて考える習慣を身に付けるようにする指導。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・「なぜだろう」と疑問がわき、知りたいという意欲が掻き立てられるような指導。
- ・単元の導入に、単元に関係のある既習事項の整理を行い、児童が安心して学習に取り組める指導。

3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・グループごとに実験や観察を行うが、数回同じ実験を行うなどして、誰でも操作できるようにしていく。
- ・単元テスト以外にもプリント学習などを通して繰り返し知識の定着状況の確認を行う。

【思考・判断・表現】

- ・「予想→実験→結果→考察」のサイクルの学習を定着させることで、児童の思考の流れが継続的になるようにする。またこの思考の流れが視覚的にも分かるように掲示する。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・児童の学習意欲を次の学習に繋げられるよう、1時間の学習の振り返りを大切にしていく。
- ・児童の疑問を取りあげ、全体の学びにつなげられる工夫をしていく。